

■1 目的

各校が特色ある教育活動を実践し被災した児童生徒の心身の安定を図り、一人一人の学力が向上する指導を行うとともに、被災中学校生徒のICTに対応する能力の向上をさせ、将来の職業選択の幅を広げるための教育活動を実践する。

■2 事業費

○事業費決算 21,790,614 円

■3 教育支援事業補助金(100万円補助)事業(各学校の実践)

(1)小学校

- ① 語彙力や調べる力の育成による学力向上
 - 国語辞典・漢字辞典の活用、辞書引き講習会の実施
 - 図鑑等の活用
- ② ICT機器を活用した授業改善
 - 電子黒板対応ソフト、デジタル教科書を活用した指導
 - パソコン、プロジェクター、書画カメラ等教育機器の効果的な活用
- ③ 基礎・基本の定着を高める授業時間以外の「学習の時間」の設定
 - 「朝の学習」「昼の学習」「放課後の学習」の実施
 - 夏季休業中の学習会の実施(問題集活用)
 - 国語、算数のドリル学習の充実(問題集・学習ソフト活用)
- ④ 学力向上の基盤となる学級経営の充実
 - ソーシャルスキルワークの活用
- ⑤ 先進校視察による教員の指導力向上
 - 筑波大附属小、お茶の水女子大附属小、秋田大附属小、福島大附属小、宮城教育大附属小、新潟大附属小、学芸大附属小
 - 福島三小、芳山小、白河二小 以上県内
 - 茅ヶ崎市立浜之郷小、習志野市立久保田小、品川区立大井一小、北秋田市立大阿仁小、八潮市立大原小、大仙市立角間川小 以上県外
 - 全国算数授業研究大会
- ⑥ 外部講師を招聘しての研究授業や講演の実施による教員の指導力向上
 - 相双教育事務所・相馬市教委指導主事による研究授業の指導(算数科)
 - 東北学院大学教授(ICT活用)
 - 筑波大附属小学校教官による授業(算数科)
 - 青山大学特任教授による模擬授業(算数科)
 - 福島大学特任教授による研究授業の指導(算数科・生活科・総合)
 - 福島大学教授による講演(国語科)
 - 福島大学教授による研究授業の指導(算数科)
 - 県内先進校教員による授業(算数科)
 - 授業学研究所による授業実践講座(各教科)
 - アナウンサーによる「話し方教室」
- ⑦ 各種検定を活用した学力向上
 - 算数思考力検定
 - 実用数学技能検定

- ⑧ 家庭との連携による生活習慣・学習習慣の確立
- ノーテレビデー、ノーゲームデーの実施
 - 家庭学習チャレンジ週間の実施

【小学校における事業の様子】



(2) 中学校

- ① 各種検定実施による学習意欲の向上と学力向上
 - 漢検、数検、英検、歴史検、理科検等の実施
- ② 先進校視察による教員の指導力向上
 - 筑波大附属中、横浜国大附属中、福島大附属小
 - 男鹿市立男鹿中、大仙市立仙北中、気仙沼市立新月中
- ③ 外部講師を招聘しての授業研修会実施による教員の指導力向上
 - 福島大学教授による模範授業(数学科)
 - 福島大学教授による講演会(キャリア教育)
 - スポーツ選手による講演会(キャリア教育)

- 予備校講師による講演会(学力向上)
- 授業学研究所による授業実践講座
- ④ 週末課題による家庭学習の習慣化
- ⑤ 基礎・基本の定着を高める授業時間以外の「学習の時間」の設定
 - 「朝の学習」の実施(問題集活用)
 - 長期休業中の学習会実施(問題集活用)
- ⑥ ICT機器を活用した授業改善
 - iPadの有効活用
 - デジタル教材を活用した授業改善
- ⑦ 家庭との連携による生活習慣・学習習慣の確立
 - ノー漫画ウィーク、ノーゲームデーの実施

【中学校における事業の様子】

タブレットPCを
活用した授業



漢字検定の様子



秋田県の中学校において指導法
を研修(先進校の授業研究会に
参加)



予備校講師による
「学び方」講演会



朝の学習会



■4 被災中学校ICT機器導入事業

(1) 磯部中学校の活用の様子



【英語】
英作文をiPadに入力して、プロジェクターで発表



【学級活動】
放射線に関する資料をiPadに取り込んで自分で学習



【学力向上タイム】
iPadを活用して、生徒が自分のペースで学習



【書写】
書き方を書画カメラ及びプロジェクターを用いて投影、iPadの画面を投影して指導



【総合】
学習したことをiPadでまとめ、班ごとにプレゼンテーション

(2) 中村第二中学校の実践の様子



【朝自習】
5教科問題にチャレンジ



【小学生の一日体験学習】
小学生が来校し、iPadを使った調べ学習を体験



【理科】
iPadで、実験結果をまとめ共有化



【美術】
iPadで、デザインの学習



■5 実施後の変容…各学校の報告書の記述から抜粋

(1) 学校全体

- ① 従来の研修のあり方を見直し、外部から講師を積極的に招いて、最新の情報や卓越した指導技術の研修会を行うことが教職員の授業力の向上に非常に有効的である。
- ② 学校全体が、学力向上を最大の課題として意識して取り組もうという姿勢になった。
- ③ 教職員の研修が活性化し、先進校視察及びその後の伝達講習等をとおして校内研究に深まりが出てきた。
- ④ 教職員、生徒ともに何事にも自分の目標の達成に向け何事にも意欲的に取り組み、学力の向上や指導力の向上が見られた。

(2) 教職員

- ① 先進校への研修視察をとおして、学力向上に関わる最新の情報を得るとともに指導技術を学び、授業に生かすことができた。
- ② 算数の授業に対する教師の姿勢が意欲的になった。様々な研修で多くを学ぶことができた。
- ③ 保護者アンケートにおいて「教職員は、組織的に生徒の育成を目指して指導している」が昨年度より3ポイントアップの85%、「教職員は、生徒の学力向上に向けて指導法を工夫している」が昨年度より2ポイントアップの83%となった。
- ④ 授業の中に生徒の言語活動を積極的に取り入れて、思考を伴う発表や話し合いの場面を工夫するようになった。

(3) 児童・生徒

- ① 国語辞典、漢字辞典を一人一人に配付し、授業や家庭学習に活用したことにより、辞書を引く技能が身に付くとともに、言葉に関心を持つ児童が増えた。
- ② 高学年の児童の多くに、「学力を高めることが自分の将来にとって重要なことである」という認識が生まれてきている。
- ③ タブレット端末を使った調べ学習やドリル学習によって、学習に対する興味関心が高まるとともに、基礎学力の定着につながった。さらに、タブレット端末の活用スキルが身に付いた。
- ④ 週末課題の学習時間が増えた。家庭学習ノートの提出が習慣化された。

(4) 保護者・地域

- ① 学校での学力向上に向けた取り組みについて関心が高まってきている。辞書の活用については、さらに下の学年からの活用、算数検定の継続を望む声がある。
- ② 家庭学習推進週間の設定やノーゲームデー・ノーメディアデーの実施により、望ましい学習習慣や生活習慣についての保護者の関心が高まってきている。
- ③ 学校だよりや授業参観をとおして、学力向上についての学校の取組を具体的に示すことで、保護者の学校に対する理解が深まった。

■5 成果と課題

(1) 成果

- ① 各取組ごとの自己評価はしたのとおりであり、各学校においては、十分に満足のごとく取組ができたと言える。

【目標を「充分達成した」「達成した」と答えた学校の割合】

<input type="checkbox"/> 先進校視察	100%	<input type="checkbox"/> ICT活用	88.9%
<input type="checkbox"/> 外部講師招聘	92.3%	<input type="checkbox"/> 各種検定	83.3%
<input type="checkbox"/> 辞書活用	100%	<input type="checkbox"/> 教材活用	100%

- ② 各学校においては、先進校視察や講師招聘による校内研修をとおして、教員の授業力向上への意欲が着実に高まってきている。
- ③ 学力向上に係る取組を公開したり、学校だよりで紹介することで、保護者の関心が高まってきた。

(2)課題

- ① 自校の取組を改善し、さらに効果的なものとするために、各学校の取組の成果を共有することを考えていきたい。
- ② 同一中学校区での連携をさらに進めていきたい。
- ③ 各学校が保護者や地域と連携した取組をさらに推進していきたい。